

第47回 市長対談

家族の絆をつなぐ写真家・浅田政志

10月2日(金)に全国東宝系で公開される映画「浅田家!」。津市は撮影が行われただけでなく、劇中でも実名で登場します。今回の市長対談では、映画の原案となった写真集「浅田家」と「アルバムのチカラ」の著者である津市出身の写真家・浅田政志さんに、作品に込める思いや今後の展望についてお話を伺いました。

市長 写真集「浅田家」の表紙を飾る消防士と消防車の写真は、本日の対談場所である津市中消防署で撮影されました。消防士に扮するのは浅田政志さんのお父さんとお母さん、お兄さん、そしてご自身です。なぜ家族を作品のモデルにしようと思われたのですか。

浅田 写真の専門学校に通っていたとき、「1枚の写真で自分を表現しなさい」という課題が出たんです。答えが出ない中、もし一生であと1枚しか写真が撮れないとしたら…とか、死ぬ間際に神様に「たくさんある写真の中から1枚だけ見ていいよ」と言われたら自分はどの写真を選ぶのかなと考えたとき、「家族写真だな」と思ったんです。それま

では家族写真はちょっと恥ずかしいものだと遠ざけていて、見たことがない写真や、カッコいい写真を撮りたいと思っていました。でも初めて撮った家族写真は想像以上に手ごたえがあって、すごく良いものだなと思えたんです。これまでの景色が180度変わるような経験でした。そこから20年以上続くとは僕も家族も思っていなかったですけどね。(笑)

市長 「一生に一枚」の家族写真は、どんなシーンだったのでしょうか。
浅田 小学生の時に自宅で父がけがをして、外出していた看護師の母を全速力で呼びに行った僕も自転車でこけて顎から血が吹き出たんです。病院に行こうとした矢先、兄も階段から落ちて頭を打って、結局男3人が母が勤務していた病院で治療されたという恥ずかしい思い出があって…。

その家族の一番の思い出話を再現して撮りました。

市長 病院で3人が包帯を巻いている写真ですね。1枚の写真が家族の特別な思い出を語り出す感じがですね。

浅田 僕の写真のジャンルは、セットアップ写真や演出写真といわれています。場所や衣装、仕草、光など全てにおいて演出を加えて、映画的な作り方って言われることもあります。ちょっと集合写真に似ていますよね。

市長 フィルムカメラで撮影されるのですか？

浅田 仕事ではその場で確認できるデジタルも使いますが、ここぞと言うときはフィルムカメラを使うというイメージです。自分の家族を撮る時だけは今でもフィルムです。1枚カシャっときることが体に染み付いていて、そのリズムの方が良い写真

が撮れるんですよ。手焼きした写真はデジタルで加工したものとはどこかたまたま違っていてすごく温かい雰囲気になるんですよ。

市長 映画の原案となったもう一冊の写真集「アルバムのチカラ」で、まさに現像して焼き付けたフィルム写真のことが紹介されています。東日本大震災の津波で汚れてしまったアルバムや写真を洗浄して蘇らせるボランティアをされた経験から、この写真集ができたわけですね。

浅田 震災当時、さまざまな職業の人たちが被災地のためにできることをしようという機運がありました。僕は被災地の何かを撮ることが力になるというよりはむしろ邪魔かもしれないと思い前向きになれなくて、岩手県野田村にボランティアに行っただけです。そこで、寒風吹きすさぶ中、写真を洗って持ち主に返却している青年に出会いました。写真はこういう時に無力で、僕は何もできないと思っていたけれど、日常が変わってしまった野田村では、まちや人々の生き生きとした様子が写った写真が心の支えとなっていました。写真が必要とされていたんです。その出会いをきっかけに写真洗浄を始めて、約2年間かけて宮城県気仙沼市や山元町などの写真洗浄ボランティアの現場9カ所ほど取材させ

ていただきました。
市長 写真洗浄ボランティアのシーンも出てくる映画「浅田家!」ですが、映画化の話が届いた時にどう受け止められましたか。

浅田 実際はお話自体は9年ほど前から頂いていて、それだけで光栄だと思っていました。実際に映画化が決まって、生まれ育った津市でロケをしていただいたばかりか僕が歩んできた人生のシーンまでも多く描いてくださったことは意外でした。全く違うストーリーになると思っていました。

市長 昨年、浅田さんご自身も津市で1つの作品「津カルタ」の制作に携わられています。私も谷川土清役で出演させていただきましたが、撮影はいかがでしたか。

浅田 橋南中学校の同級生が企画した「津カルタ」は市民の皆さんからモデルを募集して、観光名所やおいしいグルメなど、津を47の句で表現したものです。写真のカルタは全国的にも珍しいと思います。難しい面もたくさんありましたが、津市の皆さんとコラボレーションできるのは魅力的でした。

市長 浅田政志さんでなければ撮れないシーンがいっぱい出てくるカルタですね。最後に、これからの目標について、お聞かせください。



卒業制作 最初の一冊(再撮) 2000年

浅田 4人からスタートした家族写真ですが、兄も僕も結婚して、子どもにも恵まれ、計9人になりました。今は年に1回、家族でいろんな都道府県に行っていて、その土地らしい1枚を撮っています。あと37都道府県で全国行脚ができるという構想で、完成するころ僕は78歳。そのとき、息子は今の僕より年齢が上になります。彼にも家族ができて家族構成も変わっているかもしれない。今でも家族写真を撮るのが一番楽しくて夢中になれることなので、そんな年月を閉じ込めたような家族の写真を撮り続けたいです。

市長 「家族の絆」が感じられるすてきな浅田ファミリーですね。これからは故郷・津を愛し、世界へと羽ばたく写真家・浅田政志さんを、津市民の皆さまとともに応援いたします。

日本映画界を代表する超豪華キャストで描かれる「浅田家!」は、新型コロナウイルス対策がしっかり行われながらの全国ロードショーとなります。どうぞご期待ください。



浅田家「消防士」 2006年

1枚の写真で自分を表現する—
その答えが「家族写真」でした

津を愛しながら世界へ羽ばたく写真家になってください

写真家
浅田 政志さん
ASADA MASASHI

1979年津市生まれ。橋南中学校、津工業高校、日本写真映像専門学校研究科卒業。2009年に写真集「浅田家」で第34回木村伊兵衛写真賞受賞。最新作「浅田撮影局 まんねん」など話題作多数。現在、PARCO MUSEUM TOKYO(渋谷パルコ)にて写真展『浅田撮影局』を開催中。

津市長
前葉 泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます!
MAYOR'S TV SHOW

- ◆津市ホームページ 津市 市長対談 検索
- ◆ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

